の道へ。絵

水員信

ありましたが、

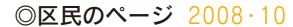
彩画を描き続けてきました。

へ。絵は趣味とし

西区役所総務企画課広聴係 〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1 TEL 641-2400 内線224~227 FAX 641-2405

- ◎西区広報番組「西区情報プラザ」FMラジオ三角山放送局76.2MHz 毎週月曜日午前11時~
- ◎西区協力番組「西区まちセン最前セン」同局毎週木曜日午前11時~
- ◎西区ホームページ http://www.city.sapporo.jp/nishi/





場所を取らず、手も汚れず 手軽に取り組める「色えんぴつ画」を楽しむ

ひであき 英明さん(69)

t < らば 桜庭



ます。 でした。中学二年生の時にはころから絵を描くのが大好き ないでしょ。だから時間つぶ「退職したら、やることが 写真のようです。 離れた所から見ると、まるで 鉛筆を重ね塗りすることで、 お菓子会社主催の塗り絵コン に語る桜庭さんは、 しにいいんですよ」と控えめ あらゆる色と質感を作り出し 十四軒在住の桜庭さんは、 腕の見せどころ」と言う二 桜庭さんの作品は少し 子どもの けるか



■桜庭さんの作品。 金属や陶器の質感が見事に表現されてい

って、強く色鉛筆を当ててみませんでした。そこで思い切等で着色しようとしましたが、第で着色しようとしましたが、がないなかのでした。その色が出せなかなか思い通りの色が出せながないは、

うのか一桜庭さんは色鉛筆の「力の加減一つでこんなに違ると、理想の色が出たのです。

面白さに魅せられました。 うのか」桜庭さんは色鉛筆

が が 描

を駆使して、朝から夕方まで、階の書斎で二十四色の色鉛筆二つの教室で色鉛筆画の指導二の回目の個展を七月に終え、 笑います。 ちゃいますからね。ご飯を食 こもりっきりで描きます。「生 さんは目を輝かせながら語 絵を見る人に訴え掛けるよう た奥さんの方を気にしながら とインタビュー中、台所に居 べる時間なんて無いんです ーフが乾いて、 ものを描いているときはモ っていきたいですね」と桜庭 な、テーマ性のある作品を作 生と死』と 質感が変わ か、

西区 1 2008-0-広報さっぽろ

ターを志望した時